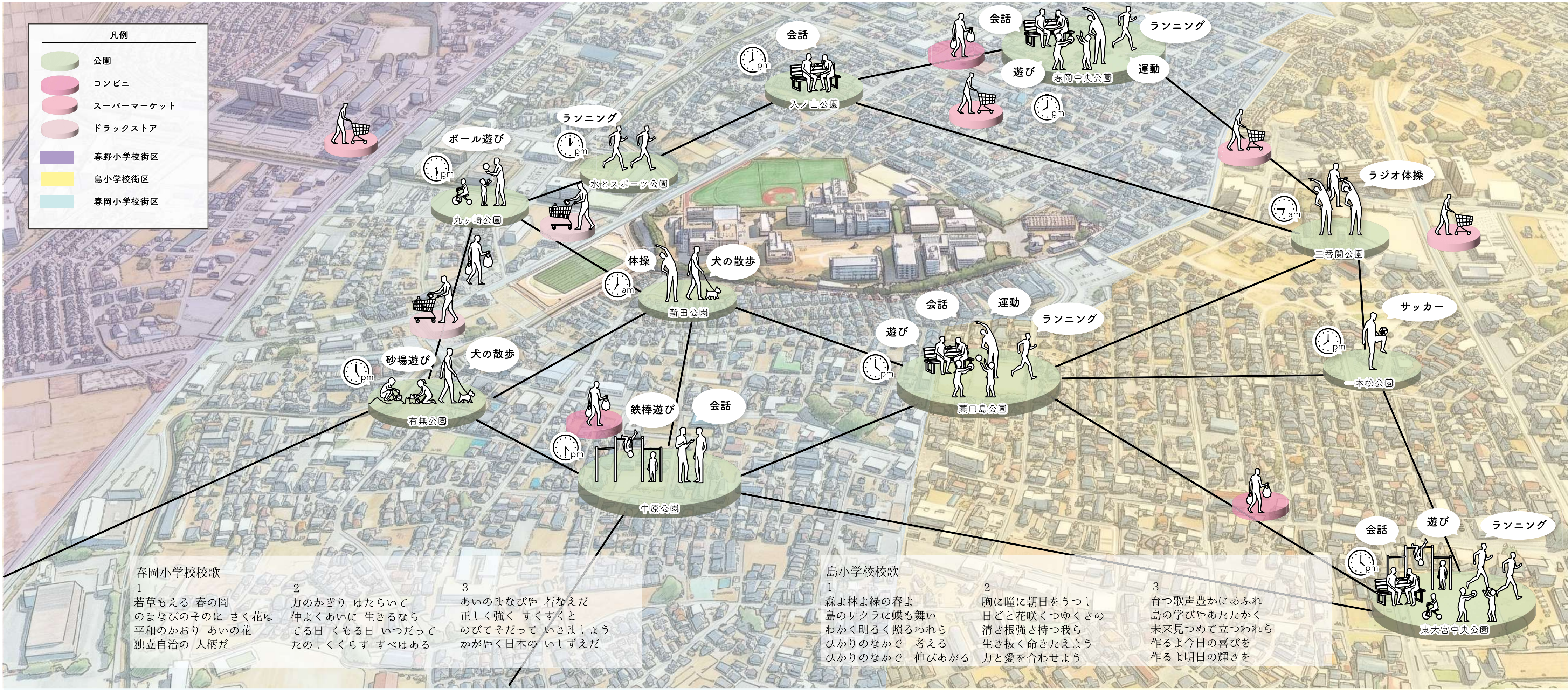
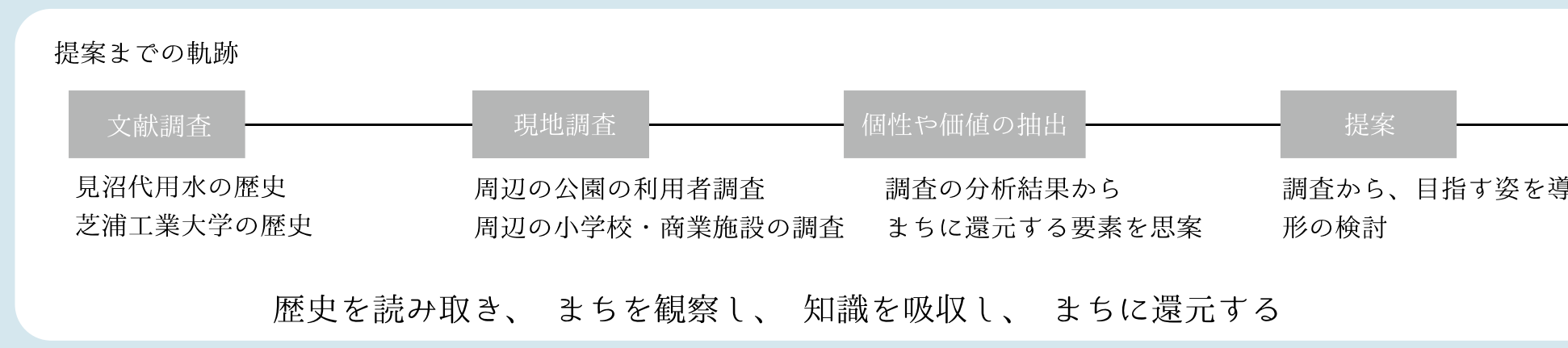


まちに流れを キャンパスがまちに対してあるべき姿を考える

「東大宮はつまらないまちだ。」
「キャンパスは駅から遠いし、住宅ばかりで遊べるところもない。」
「豊洲キャンパスが羨ましい。」
私たちはこれまでに、そんな不満を漏らし、時には自虐的に笑いつてきた。

でも、このコペを通して私たちは思い知られることになる。我々学生は、東大宮について何も知らなかったことを、
かつて、この地は江戸幕府8代目将軍・徳川吉宗の命により、約60kmも離れた利根川から見沼代用水路を引くという、
壮大な新田開発を行った。起伏に富んだ台地に張り巡らされた水路は、豊かな田園風景を形作り、地域の経済を潤し、人々の暮らしと想いを繋ぎ合わせてきた。
そのような耕作地に60年前、我々芝浦工業大学はやってきた。
そして、この地の宅地化を含む大きな変化を見守ってきた。

現在の東大宮はどうであろうか
水路等の地域資源は街の裏側に隠され、「ありふれたベッドタウン」にしか人々の目には映らなくなってしまう。
果たして、この街は本当にただのベッドタウンなのだろうか。
そこで我々は街の施設を徹底的に調べ、向き合った。
その結果見えてきたのは、ベッドタウンの奥に潜む、確かな「生活の豊かさ」と「人々の活発な営み」だった。
私たちは江戸の昔からこの地に流れる用水を現代に再解釈し、大学エンタランスという媒介を通して「まちの再興」を試みる。
大学という存在を起点に、閉ざされた街の視界を開拓する。
そしてこの街の「面白い」を気づかせてみせる。



-concept-

水-見沼代用水-
水がまちを流れ、水田に引き込まれ、作物を育てる

人-大宮キャンパス-
人が大学を歩き、場所に誘引され、大学に活気を与える

大学生を含むまちの人々は、3つの「人」の要素をまちの中の異なる場所で無意識のうちに繰り返す。

人 まち
人がまちを流れ、場所に誘引され、まちに活気を与える

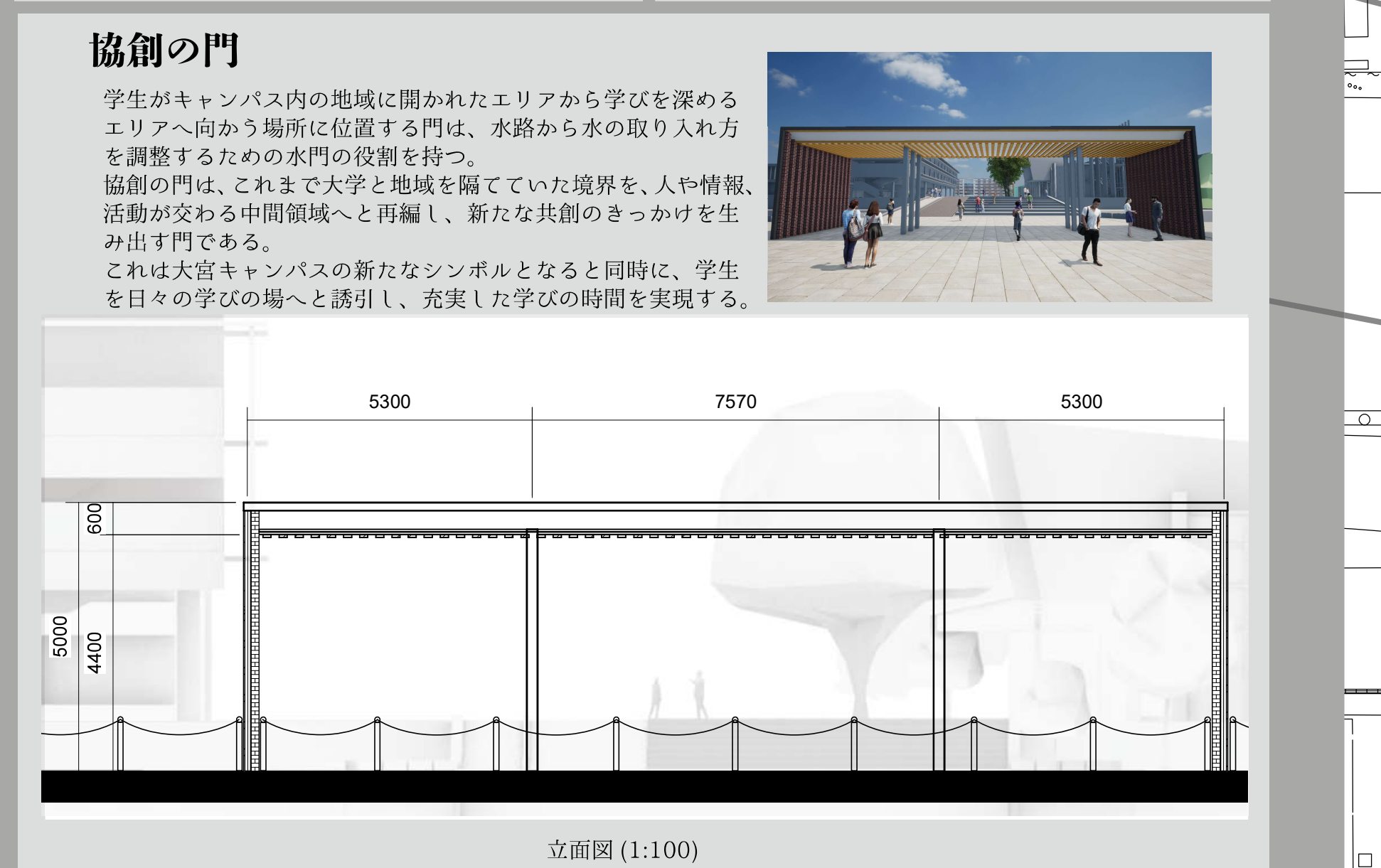
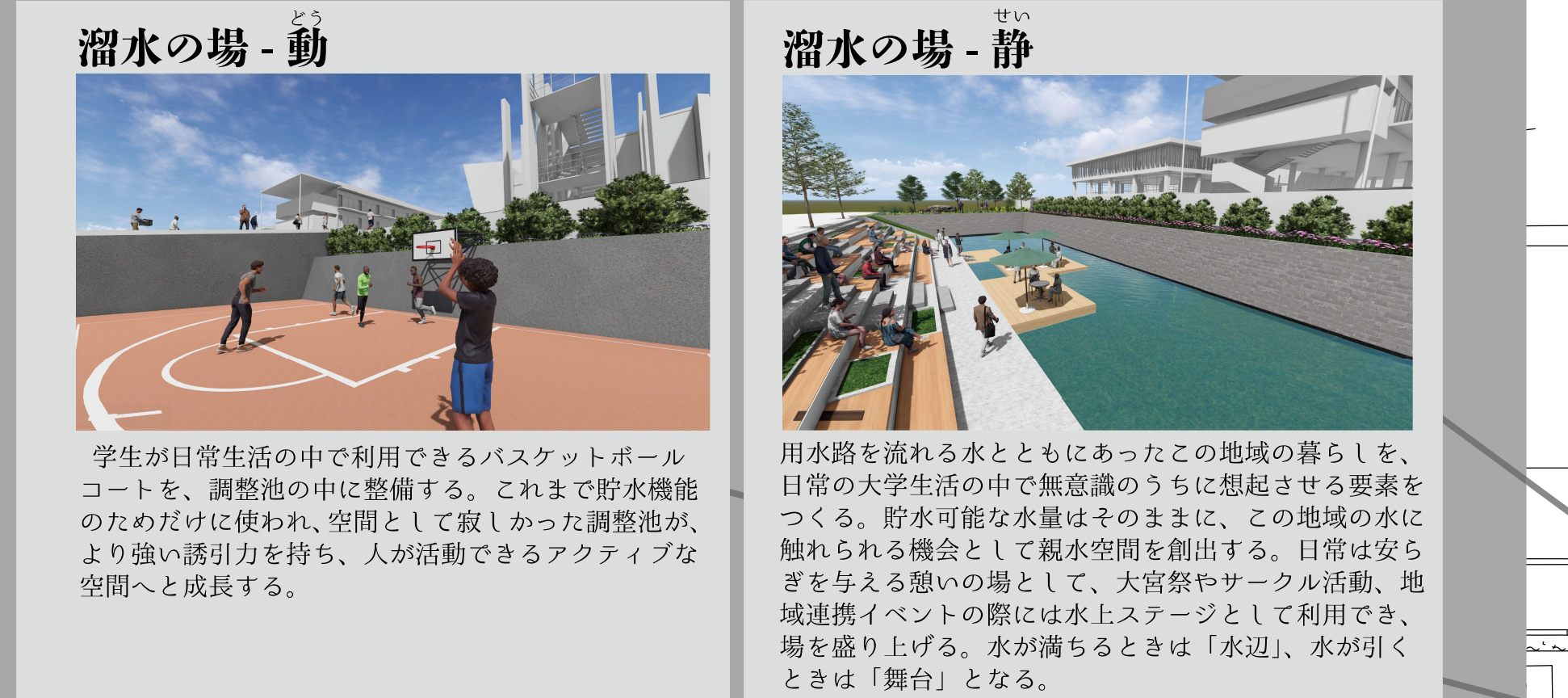
流域 = まち
水 = 人
水田 = まちの機能

-水の流れを、人の流れへ。そして、まちに流れを。-

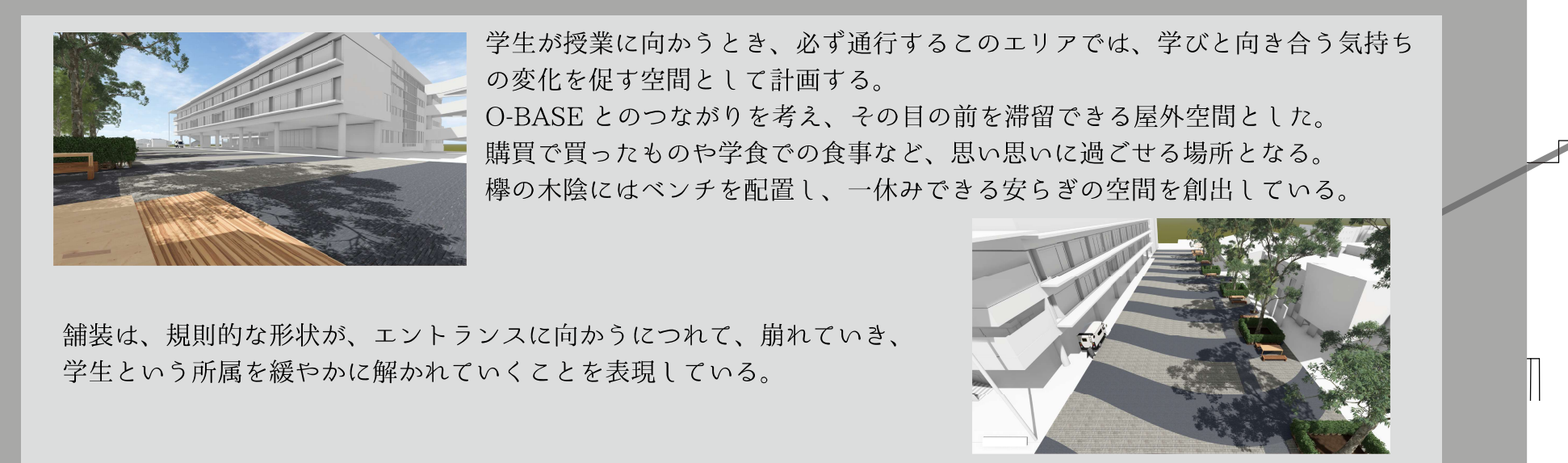
Proposal



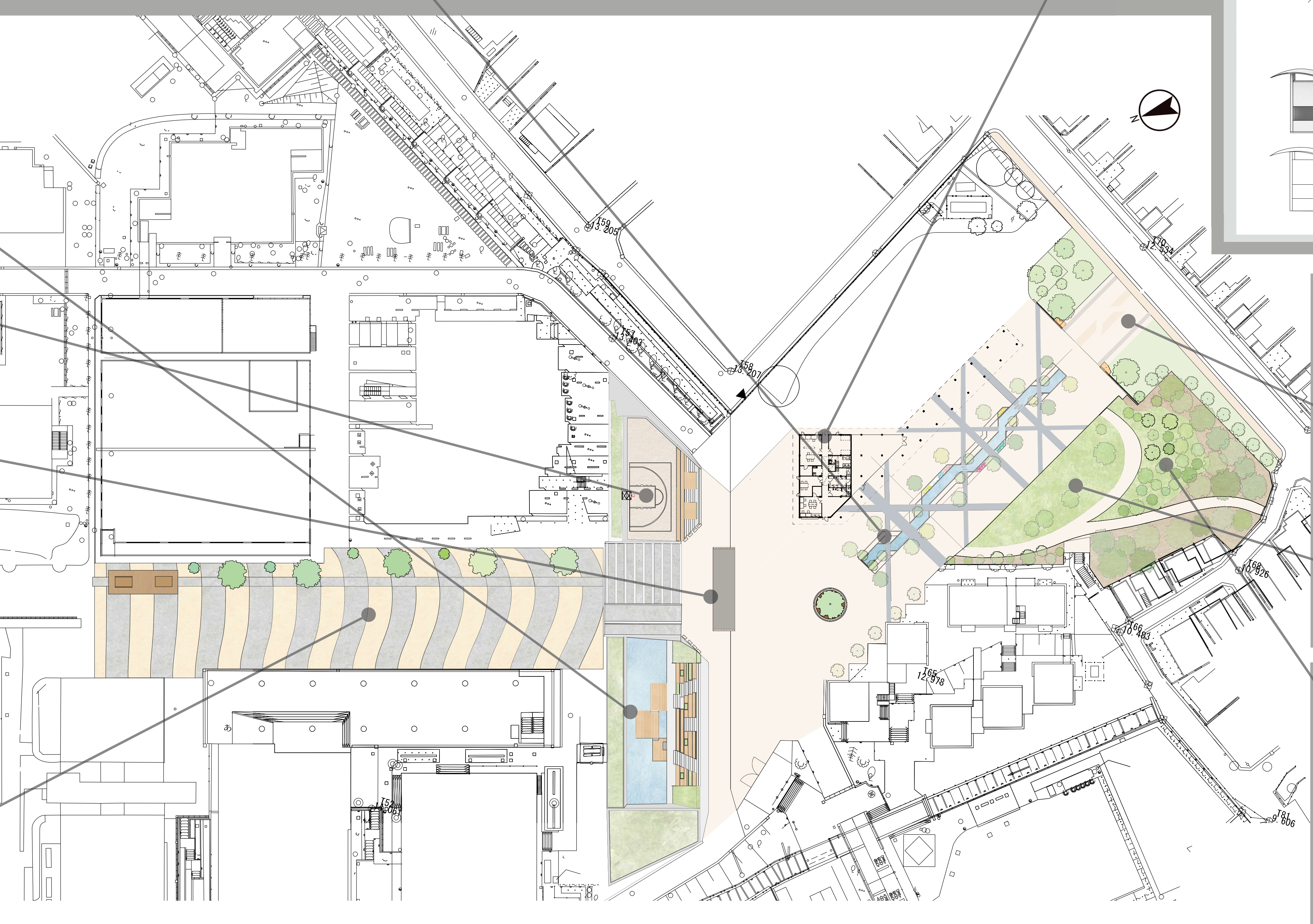
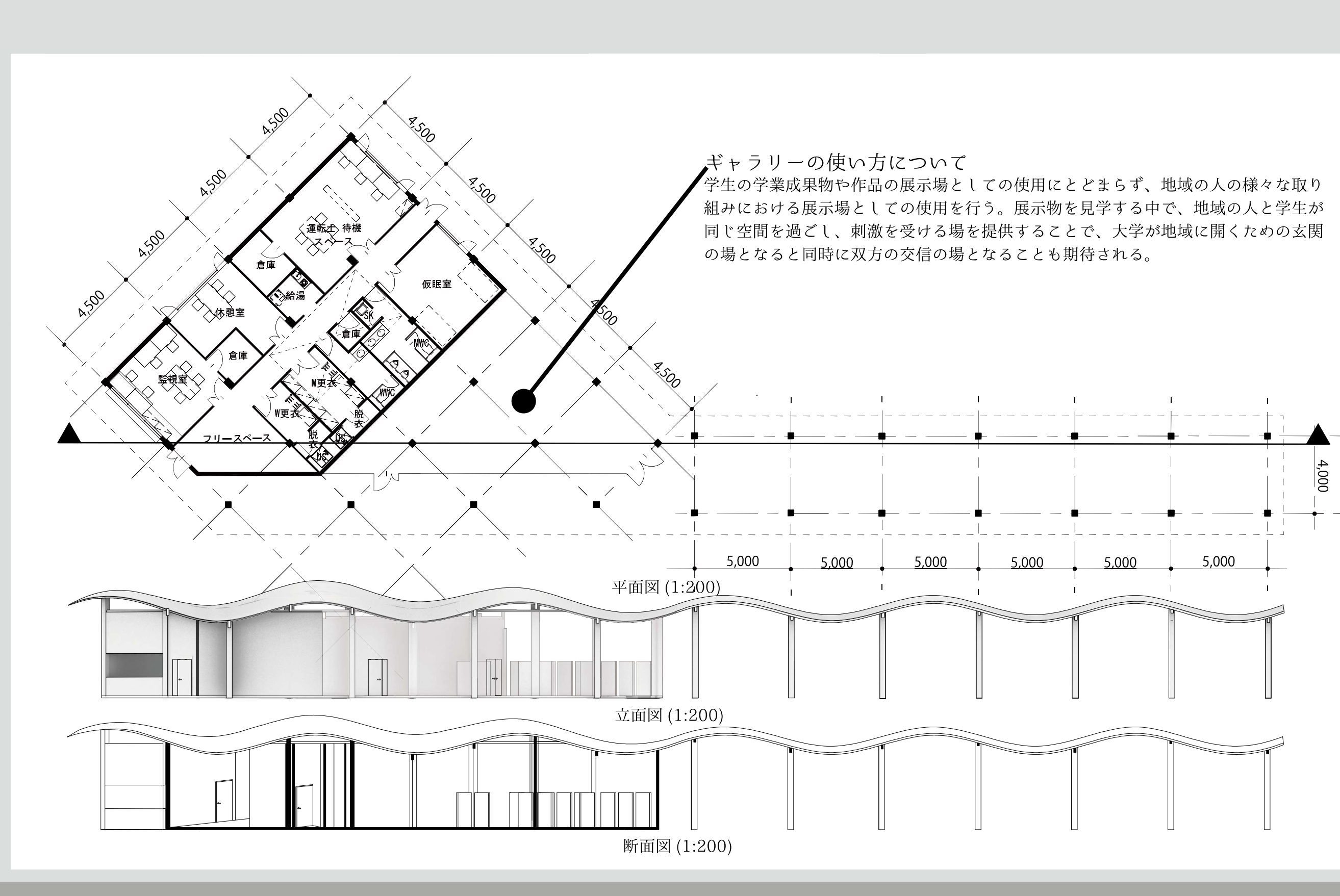
ZONE C



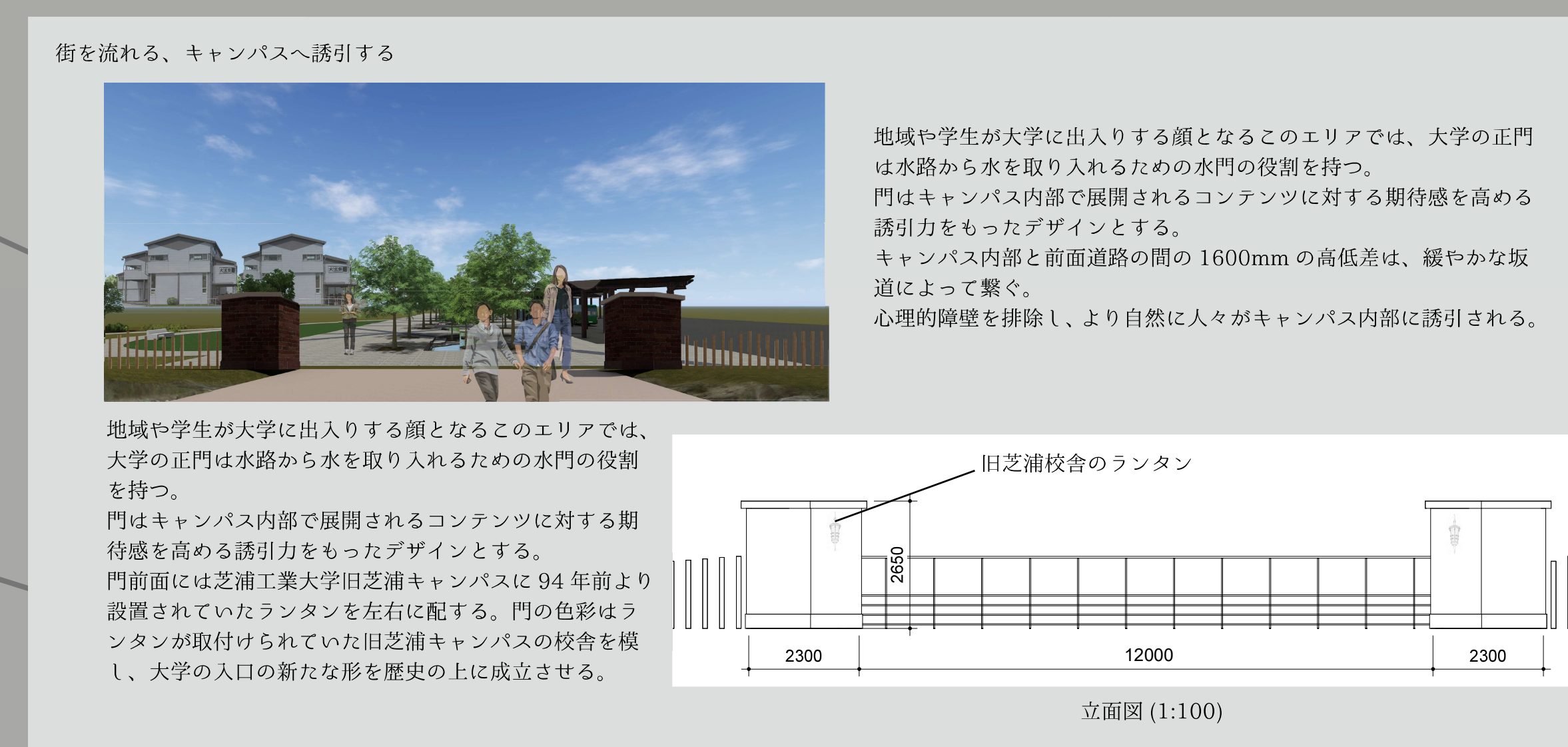
ZONE D



ZONE B



ZONE A



Garden

